

4 冷え症の便秘に当帰四逆加呉茱萸生姜湯が有効だった症例



渡邊 賀子 先生

麻布ミュージッククリニック

1987年 久留米大学医学部 卒業
 同年 熊本大学医学部第三内科 入局
 1990年 近畿大学東洋医学研究所 助手
 1993年 北里研究所東洋医学総合研究所 研究員
 2003年 慶應義塾大学医学部漢方医学センター 非常勤講師
 2004年 麻布ミュージッククリニック 院長

はじめに

冷え症はありふれた症例であるが、最近ではストレスや冷房の影響もあり、複雑で深刻化しており治療には難渋することが多い。大塚敬節の提唱した「疝気症候群A型」は、いわゆる冷え症における当帰四逆加呉茱萸生姜湯の運用の指針ともいえる考え方である(表)。この考え方をもとに、便秘を伴う冷え症に当帰四逆加呉茱萸生姜湯を用いたところ、冷えとともに便秘の改善をも認めたので報告する。

表 疝気症候群A型

- 手足の寒冷を訴え、甚だしいものは肩から足にまで水が流れるようだと訴える
- 慢性に経過する下腹痛があり、それが腰痛・四肢痛にまで及び時には背痛頭痛を訴えるものもある。
- 肝経の変動によって起こると考えられる症状が多く、特に生殖器・泌尿器からの障害が多く、不妊の傾向がある。
- 開腹手術、特に子宮筋腫・卵巣嚢腫・妊娠中絶術・帝王切開、下腹や腰部の外傷などの既往歴があるものが多い。
- 当帰四逆加呉茱萸生姜湯の服用2～3週間で著効があらわれる。
- 婦人に多く男性にはまれである。

症 例

症例1：63歳 女性 下半身の冷え

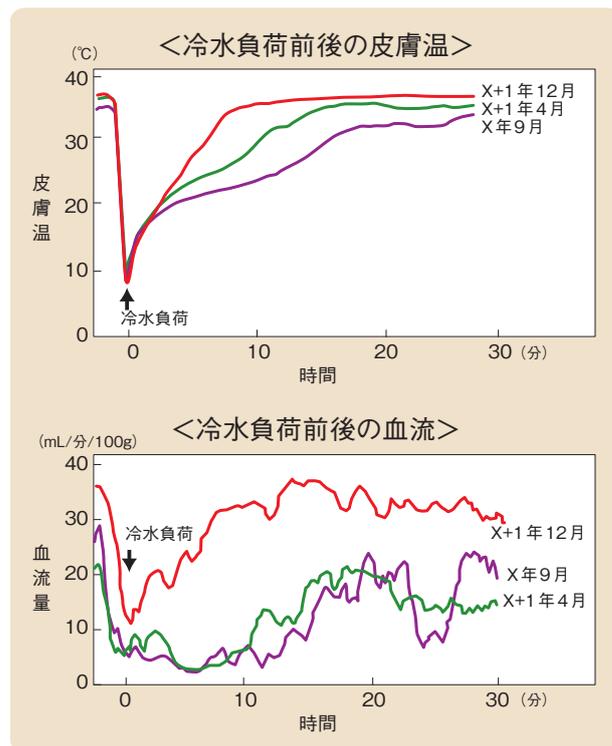
主 訴：下半身の冷え(特に腰と左下肢が痛いほど冷える)

現 病 歴：45歳の虫垂切除術後から、冬になると下半身の冷えを自覚するようになった。58歳での大腸癌の開腹術後からは冷えが増悪し、便秘も出現するようになった。最近では夏でも冷えが強く、腰と左下肢の冷えが苦痛で不眠となったため、北里研究所東洋医学総合研究所の「冷え症外来」を受診した。

現 症：慢性の下腹部痛はなかったが慢性の便秘があり、肝経に由来すると思われる不眠を訴え、さらに2度の開腹手術をしていることから、疝気症候群A型と判断した。

経 過：当帰四逆加呉茱萸生姜湯を投与した。その結果、投与2週後には便秘・不眠が劇的に解消し、冷えも徐々に軽減した。また、4℃ 30秒間の冷水負荷後の皮膚温ならびに血流についても改善を認めた(図1)。

図1 症例1 冷水負荷前後の皮膚温と血流



症例2：40歳 女性 手足の冷え・便秘

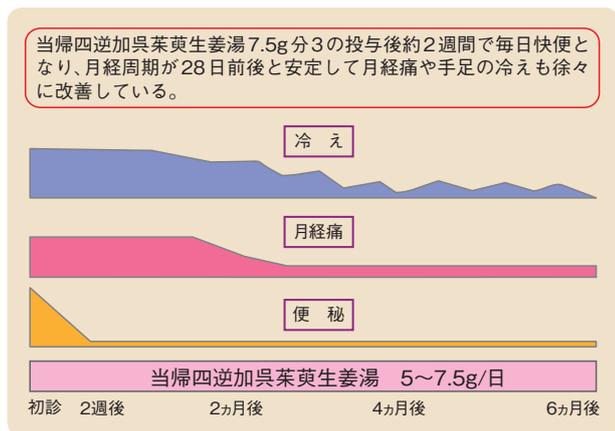
主 訴：手足の冷え・便秘

現 病 歴：幼少期から便秘で、2～3日に一度の兎糞状便。下剤は腹痛となるため服用していない。16歳頃から冬になると、しもやけが出来るほど手足の冷えが辛い。18歳で虫垂切除術と右卵巣囊腫核出術、33歳で左卵巣囊腫核出術を受けた。月経周期が20～27日とやや短く、月経痛を伴う。

現 症：脈は沈、舌は淡紅色、薄白苔(+)、腹力は中等度で軽度の臍傍圧痛および軽度の貧血(Hb 10.9g/dL)を認めた。

経 過：疝気症候群A型と判断し、当帰四逆加呉茱萸生姜湯を投与した。投与約2週後には毎日快便となり、2ヵ月後には月経周期は28日前後と安定し、月経痛も改善したが、冷えの改善は緩やかで、1年後の現在も服薬を継続している(図2)。当帰四逆加呉茱萸生姜湯の投与量は、真夏では1日5gでも十分であるが、少し寒くなると1日7.5gの服薬が便秘の解消には必要であった。

図2 症例2 臨床経過



症例3：27歳 女性 手足の冷えとむくみ・便秘・肩こり

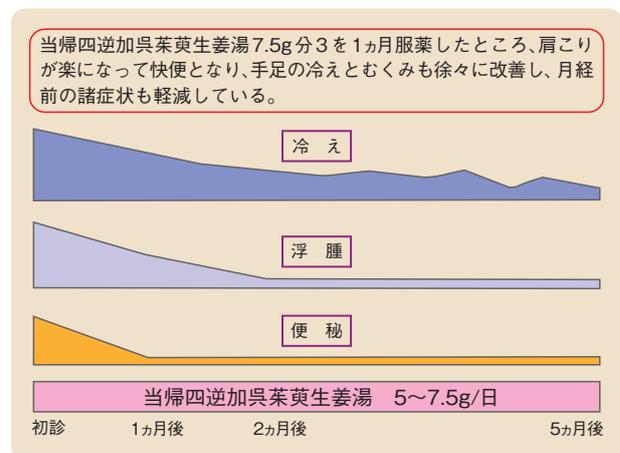
主 訴：手足の冷えとむくみ・便秘・肩こり

現 病 歴：学生の頃から手足が冷たく、便は3日に1回と便秘気味で硬く、外痔核がある。首から肩のこりがあり、顔や手足がむくみやすく、月経前は気分が落ち込んだりイライラして過食になる。

現 症：脈は平。舌は淡紅色・無苔。腹力は中等度で、軽度の臍傍圧痛を認めた。

経 過：典型的な疝気症候群A型とはいえないが、冷えと便秘があり、腹証から当帰四逆加呉茱萸生姜湯を投与した。投与約1ヵ月後から肩のこりが軽くなり、便秘が解消し、手足の冷えとむくみも徐々に改善した。本症例でも気温の変化に合わせ、投与量は5～7.5gの範囲で適宜増減し、現在も服薬継続中である(図3)。

図3 症例3 臨床経過



まとめ

疝気症候群A型と考えられる冷え症には、当帰四逆加呉茱萸生姜湯が有効なことが多い。しかし、冷房などの影響で冷えの病態は複雑化しており、長期にわたる服用が必要なことも少なくない。また、便秘を伴う冷え症には、当帰四逆加呉茱萸生姜湯が冷えの改善に先行し便秘を改善することが多い。

COMMENTS

後山：当帰四逆加呉茱萸生姜湯は、補血剤、温経散寒剤という理解でしたが、便秘にも非常に効果的ということでした。峯先生、このことは漢方的にはどのように説明できるのでしょうか。

峯：当帰四逆加呉茱萸生姜湯は大建中湯のようにお腹を暖めて蠕動運動を促進する作用以外に、潤腸湯のように潤すことで排便を促進する作用があります。便秘の治療は難しいのですが、下剤ではない薬で治療を行うことはとてもよい考え方だと思います。